



大島・豊島へのアクセス図（※福武財団の次のHPより） <http://benesse-artfest.jp/access/>

てしま ◆ 豊島

梓築技術士事務所 あべ せいいち
阿部 清一

10月のある日、豊島美術館に行ってみた。島には珍しい棚田の中腹にそれはある(写真1)。円盤型のコンクリートの空間。直径30m、高さ3m程度、中には何もない。空に向かって開いた2つの丸い大窓から、風の流れと鳥のさえずり、そして静寂が行き来している。あちこちの足元から少しずつの水が湧きいでて床を転がり、集まって、時には洪水の様を呈して池に落ち込んでいる。2つの窓と2つの池、あるのはこれだけ。内藤礼という女性の作という。宇宙の輪廻を表しているのであろうか。また、生命のものである子宮を模しているのであろうか。訪れた人はしばしの間、たたずみ、横になってこの空間と一体になっている。

豊島は瀬戸内海、小豆島の西に位置する周囲20kmの風光明媚な島。標高

345mの壇山だんやまからの360度の眺めはまさに絶景である。豊島の由来は雨の少ない夏の瀬戸内海にあって水が枯れないことにあるという。壇山だんやまの保水力は100haの水田を潤していた。半農半漁の豊かな島、それが豊島である。

この島にある日突然都会からのごみを持ち込まれ始めた。40年前のできごとである。島の岬に6haの砂採取跡地を所有する業者はその場所に野焼きで嵩を減らしたごみを埋め続けその量は瞬く間に90万tonにもなった。野焼きの黒煙がおとなしい島の人を立ち上がらせ(写真2)、ほぼ全員の反対署名を集めた。584人は業者に対して、社会に対して、その不条理を声高に叫んだ。大量生産・大量消費時代を象徴する豊島不法投棄問題である。17年の歳月をかけて約90万ton



写真1 豊島美術館 写真：森川昇

のごみは2017年3月にはその全てがなくなろうとしている。豊島の喧騒は終わつつある。多くの犠牲を払ってまた穏やかな豊島に戻りつつある。われわれは豊島問題を通じて何を学んだのであろうか。異を唱えた584人の半数の方は既にこの世にいない。「死」には3度の死があるという。個体の死、記憶の死、記録の死、である。個体の死は必ず訪れるが豊島問題の記憶の死と記録の死はいつ訪れるのであろうか。多くの人たちの思いをのせた豊島問題、明日に未来に生かし続けなければならない。豊島美術館の胎内にいてふと思ったことである。



写真2 産業廃棄物が野焼きされていた
(1990年8月撮影)
豊島・島の学校 豊かな島と海を次の世代へ
写真集 より
<http://www.teshima-school.jp/archive/gallery/>